

横浜キネマ倶楽部

第78回上映会 1982年/日本/カラー/213分/DVD 上映

ニッポン国

古屋敷村

第34回ベルリン映画祭国際批評家連盟賞受賞
第56回(1982年度)キネマ旬報ベストテン5位

5月6日(月・祝)

【1回のみ上映】

12:00 開場

12:30 上映

※途中15分間休憩あり

【事前交流会】11:10~11:30

【事前交流会は10分前開場】【上映前:入替制】

生きることのフシギ!

イネの声を聞いた。この国のユメを見た。

「チケットぴあ」から
入場券が購入できません
購入は5月5日(日)迄となります

(Pコード:553-648)

「セブン-イレブン」でチケット購入可能

監督:小川紳介 撮影:田村正毅 音楽:関一郎 画:藤森玲子 製作:伏屋博雄

横浜市南公会堂(南区総合庁舎内3階)

☎045-341-1261(席数400席)

後援:横浜市教育委員会

【入場料】前売:1,000円 当日:1,300円 障がい者:1,000円 介助者1名無料

【主催・問合せ】☎080-2554-8023(10時~18時)横浜キネマ倶楽部

【プレイガイド】有隣堂伊勢佐木町本店☎045-261-1231/高橋書店(元町)☎045-664-7371

いづみ書房☎045-241-1104/シネマ・ジャック&ベティ(黄金町)☎045-243-9800

横浜シネマリン(長者町)☎045-341-3180/岩間市民プラザ(天王町)☎045-337-0011

【チケットぴあ】(Pコード:553-648)「セブン-イレブン」でチケットの発券ができます。

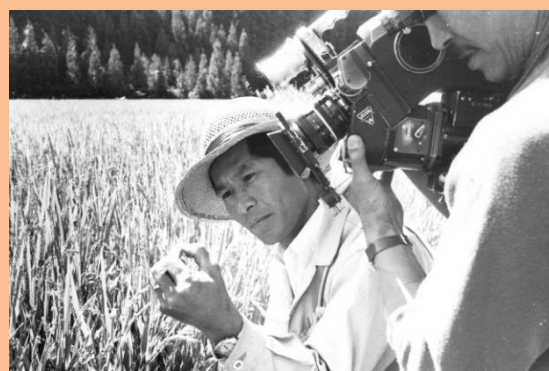
【最寄駅】

市営地下鉄「阪東橋」駅
徒歩約8分
京浜急行「黄金町」駅
徒歩約14分



ニッポン国古屋敷村

《解説》小川プロが牧野で米作りを始めてから6年目の1980年8月、稲の開花期に低温が続いたことから、撮影は牧野を離れ、標高400メートルから500メートルの高地にある古屋敷村の冷害に向かう。これが、本作の前半部分になるが、小川プロでは、1976年から稲の「観察日記」を始め、78年5月の田植えから、『牧野物語・稲歴』の撮影を開始。79年には土壌学の権威を訪ねて土と微生物の学習をする。『稲歴』は独立した作品にはならなかったが、それらの経験や研究の蓄積が、ここでの稲の観察や撮影に活かされた。前半1時間は、古屋敷村の冷害の原因探求に費やされるが、その克明さに圧倒される。毎日の天気や気温の変化を示す詳細な図表、そこから稲の開花が、平年より20日も遅れたことが明らかにされ、さらに冷害の原因が、宮城県側の山から降りてくる「シロミナミ」と呼ばれる冷気にあるとわかってからは、地形の模型を作ってドライアイスを通し、冷気の流れを可視化していく。それによって、全滅した田とそうでない田が明らかになる。つまり、冷害という現実から科学的な分析に進み、その結果を再度、実際の田圃で検証するという往復運動が行われているのだが、それは、実践的な科学のお手本ともいえるだろう。実際、このパートは、見事な科学映画といってもいいが、ここには、通常の科学映画にはない喜びがある。もちろん、冷害自体は、喜ばしいことではない。にもかかわらず、見ていてワクワクするような喜びを感じるのはなぜなのか？まずは、小川プロのスタッフが、詳細な観察を記録し、現に起こっている事象の原因を知ることによって喜々として取り組んでいる、その様子が見ているこちらに伝わってくるからだ。と同時に、徹底して具体的・科学的に研究していく過程が、誰にでもわかるように可視化されていくからである。古屋敷村の農民にとっても、冷害の原因は経験的に知っていても、冷気の流れを正確にこの目で見たわけではない。それが、模型を使った実験によって可視化されたとき、改めて得心がいて「わかる」のだ。たんに「知る」のではなく、見て「わかる」こと。それが楽しいのである。牧野の小川たちは、稲刈りにせよ養蚕にせよ、自分たちの実践を通じて認識を深め、それを映画にしていっただのである。それは、オワリばあさんが、いちばん辛かったことと語る、山道を炭や桑の葉を背負って往来したという「オワリ街道」を、カメラが辿っていく短いシーンにさえ現れている。画面には、ただカメラマンの歩行につれて山道が写し出されていくだけだが、やがて画面外から荒い息遣いが響いてくる。それによって、この道を4、50キロもの荷を担いで歩くことの辛さが、見る者にも体感されるのである。後半は一転して、古屋敷村の人たちへの聞き語りになる。彼らの記憶を通して、この村の歴史が語られていくが、それは、大文字の歴史からはこぼれ落ちた生きられた時間として現れる。事実、オワリばあさんの、山奥から赤い腰巻きの「いいオナゴ」が現れたのを見たという不思議な話にしても、花屋の分家のさださんの、夫が村と上山を往復して荷運びをする仕事で帰ってきたとき、お湯を沸かして馬の足を洗ってやるという話にしても、あるいは三人の男たちが、それぞれの体験を通して語る戦争にしても、そこに見えているのは、語る彼らの顔でしかないが、その顔や声から、この人たちの生きた時間が立ち上ってくる。わけても、蚕が作った繭を取り出す作業をしながら、老婆が低い声で歌い出し、それが一緒に仕事をする他の老婆に唱和される幕切れは圧巻である。なお、本作は1984年のベルリン国際映画祭で国際映画批評家賞を受賞。同年、小川プロ作品では初めて劇場公開された。



《スタッフ》

監督:小川紳介 撮影:田村正毅 音楽:関一郎
 現地録音:菊池信之 画:藤森玲子 詩:木村迪夫
 製作:伏屋博雄

＜これまでの上映作品＞全84作品(特別上映会6回、上映会中止2回を含む)

美しい夏キリシマ/パッチギ!/カーテンコール/二人日和/ゆれる/トリノ、24時からの恋人たち/長い散歩/天空の草原のナンサ/イノセント・ボイス-12歳の戦場-/モーターサイクル・ダイアリーズ/恋するトマト/シッコ/歓喜の歌/赤い風船・白い馬/三本木農業高校、馬術部/ラストゲーム~最後の早慶戦/マリア・カラスの真実/ディア・ドクター/扉をたたく人/縞模様のパジャマの少年/春との旅/小さな村の小さなダンサー/冬の小鳥/ホームカミング/ミツバチの羽音と地球の回転/デザートフラワー/ハーモニー心をつなぐ歌/ドーパーばばあ織姫たちの挑戦/エンディングノート/旅芸人の記録/トガニ/月世界旅行・メリエスの素晴らしい映画魔術/かぞくのくに/警察日記/名もなく貧しく美しく/よみがえりのレシピ/きっと、うまくいく/日本の悲劇/ペコロスの母に会いに行く/息子/ハンナ・アーレント/標的の村/救いたい/野のななのか/ぼくたちの家族/NO(ノー)/春よこい/野火/手のひらを太陽に/袴田巖夢の間の世の中/父を探して/お盆の弟/祖谷物語-おくのひとつ-/東京ウインドオーケストラ/ふるさと/どっこい!人間節寿・自由労働者の街/孤獨の人/喜劇大風呂敷/神宮希林わたしの神様/寿ドヤ街生きる/寿ドヤ街生きる2/日曜日の子供たち/1999年の夏休み/風のある道/アダムズ・アップル/十階のモスキート/約束名張毒ぶどう酒事件死刑囚の生涯/夢は夜ひらく/我が人生最悪の時/喜劇・いじわる大障害/喜劇女もつらいわ/木靴の樹/赤いハンカチ/裸の島/スモーク/みんなの学校/泥の河/帰らざる波止場/帰郷/風船/マタギ

横浜キネマ倶楽部 第79回上映会 作品・会場・日時 未定

【横浜キネマ倶楽部】

住所:〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民活動サポートセンターNo.269 横浜キネマ倶楽部

〈問合せ〉TEL 080-2554-8023(10~18時) Eメール:yokohama_kinemaclub@yahoo.co.jp HP アドレス <https://ykc.jimdofree.com/>